

令和元年度 福岡市介護実習普及センター運営委員会議事録（要旨）

1. 開催日時 令和2年1月23日（木） 13時30分～15時30分
2. 開催場所 健康づくりサポートセンター（あいれふ）視聴覚室A
3. 会議次第

- (1) 開 会
 - ① 委員紹介
 - ② 委員長・副委員長の選出
- (2) 報告事項
 - ① 平成30年度福岡市介護実習普及センター事業及び住宅改造相談事業の実績について
 - ② 令和元年度（4～9月）福岡市介護実習普及センター事業及び福岡市障がい者高齢者住宅改造相談事業の実施状況について
- (3) 協議事項
 - ① 福岡市介護実習普及センター事業・福岡市障がい者高齢者住宅改造相談事業の実施状況の評価について 【非公開】
 - ② 令和2年度福岡市介護実習普及センター事業及び福岡市障がい者高齢者住宅改造相談事業計画（案）について
- (4) 閉 会

4. 出席委員 清水委員（副委員長）、石内委員、田中委員、小田原委員、石橋委員、栗原委員
欠席委員 岡本委員（委員長）

5. 報道機関取材者及び傍聴者 <一部公開>
報道機関：無 傍聴者：無

6. 議事概要

(1) 開会

- ① 委員紹介
- ② 委員長・副委員長の選出

<質疑・意見>

なし

(2) 報告事項

- ① 平成30年度福岡市介護実習普及センター事業及び住宅改造相談事業の実績について

② 令和元年度（４～９月）福岡市介護実習普及センター事業及び福岡市障がい者高齢者住宅
改造相談事業の実施状況について

→介護実習普及センターより資料２，３に基づいて説明

<質疑・意見>

◎介護実習普及センター事業について

（委員）来所相談の場合、利用者は事前に予約して来所するのか。事前予約なく来所して、他の来所者の相談に入っており対応できない場合はどうしているのか。

（センター）来所相談は事前予約なく来所されることが多いが、相談対応できる職員が他の相談者に入っているときなどは、他の職員が声をかけたり福祉用具展示場の見学をしてもらったりと柔軟に対応している。

（委員）フェスタのリビング福岡への掲載の効果はどうであったか。

（センター）フェスタの来場数は前年度より上回っており、効果があったと感じている。

（委員）視察について、市内だけではなく他県や海外などからも来られており感心した。

（委員）講座やフェスタについて、市民への情報提供はどのようにしているのか。

（センター）市政だよりやふくふくプラザ利用時の案内、民生委員児童委員協議会での説明、利用者間の口コミなど。広報については課題としており、今後も情報発信に力を入れていきたい。

（委員）企業向け講座は無料なのか。

（センター）認知症サポーター養成講座は認知症の理解などを広める目的で実施しており、費用を徴収するものではないため無料で実施している。介護講座は材料費など一部実費徴収している。福祉用具の情報提供等は無料で行っている。

（事務局）介護講座は一般市民向けに行っているため、企業向けの介護講座は実施していない。

（委員）タクシー会社から車いすの乗車方法について相談を受けることはあるか。

（センター）ない。

（事務局）介護実習普及センターは市民向けのセンターとなっている。

（委員）別冊 23 の計算書について説明願いたい。

（センター）法人全体の計算書となっている。介護実習普及センター事業及び障がい者高齢者住宅改造相談事業については市からの受託費である。

◎住宅改造相談事業について

（委員）介護保険制度住宅改修理由書作成件数の「理由書のみ」とはなにか。

（センター）住宅改造相談センターで受けた相談の内、住宅改造に至らず住宅改修の理由書作成のみで完了した案件のことである。

（委員）住宅改造を実施することとなった場合は業者も紹介しているのか。

（センター）特定の業者の紹介は出来ないが、お住まいのエリアにある複数業者を紹介するなどしている。

(3) 協議事項

- ① 福岡市介護実習普及センター事業・福岡市障がい者高齢者住宅改造相談事業の実施状況の評価について 【(3) ①評価については非公開】
- ② 令和2年度福岡市介護実習普及センター事業及び住宅改造相談事業計画(案)について
→事務局より資料5に基づいて説明

<質疑・意見>

- (委員) 計画に入れることではないが、自助具について家にあるものでも工夫すれば代替えできることを発信していただきたい。
- (委員) 「1介護実習・普及事業」「(1)介護講座等の実施」の「社会情勢や参加者のニーズ」についてももう少し詳しく記載した方がよい。
- (事務局) 例えばどういったことか提案はあるか。
- (委員) 高齢化に伴う在宅での老老介護等や障がい者でいえば社会参加等が考えられる。
- (委員) 車いす利用者がバスに乗る際、事前予約すれば予定時間のバスに乗れるが、していないと次のバスに乗ってくださいと言われるなど、なかなか乗れないこともある。外国では車いすの人は普通に並んでいて、後ろに並んでいる人が乗降の手助けをしている光景が見られる。日本では、時間がかかることに冷たい視線を向けられるため、通勤時間に重ならないように気をつかうなどの状況である。
- (委員) 介護は女性が行う割合がまだまだ多いと思われ、男性の担い手を育てる視点も必要ではないか。
- (委員) 確かに最近はケアメンという言葉も聞くようになり、男性で介護の担い手となる人が今後増えていくだろう。
- (委員) 介護者が一人で抱え込まないことが大事(特に男性)。介護者も介護される方も出かけたりするような社会になればよいと思う。市では「ゆるーく備える親の介護講座」なども実施されている。
- (委員) 車いすの展示について、密集しており見づらいため展示方法を工夫してほしい。
- (センター) スペースの問題と安全性に考慮して現在のような展示になっており、声をかけてもらえれば、職員が取り出して通路で試しに利用してもらっているが、検討したい。
- (委員) 男性や次世代に介護に目を向けてもらうことが大切であると考え。知識の普及啓発に力を入れてもらいたい。
- (委員) 住宅改造相談事業について、関係機関との連携を強化してもらいたい。退院時の連絡等、医療や介護の現場の人たちが住宅についての意識がまだ足りていないのではないかと感じる。
- (センター) 各医療機関等にチラシを毎年送っており、実際に退院時に医療機関の職員に同行をお願いし、一緒に自宅訪問する等している。
- (委員) 今後も継続してもらい、さらに医療機関等の認知度を高めてもらいたい。